

【説明資料】 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的、利用方法、作品自体やその製作過程で工夫したことを、文章、写真、図などで説明。

学校名	茨城大学	個人・グループ名	小竹 博明	作品名	組継ぎを利用した鉢植え教材
		<p>【製作動機】</p> <p>平成 20 年に学習指導要領が改訂され、技術・家庭技術分野において、これまで選択であった『作物の栽培』が『生物育成に関する技術』として、必修化されました。しかし、学習指導要領改訂による授業時間数の変化は無く、これからの技術分野の授業において、各内容を学習する時間は減少すると考えられます。そのため、各内容を効率的に学習できる教材が必要であると考えました。</p> <p>そこで、『材料と加工に関する技術』と『生物育成に関する技術』の関連を図り、効率的に学習できる教材として『組継ぎを利用した鉢植え教材』を考案し、製作しました。</p>			
		<p>【製作方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 木材コカきをします。 2 けがき線に沿って切断します。 3 組継ぎの部分のをこぎりやのみを使用して加工をします。 4 仮組み立てをして、かななどで調整をします。 5 ボール盤で部品①、③に下穴を、⑥に排水用の穴あけをします。 6 油性ニスで塗装をします。 7 木工用ボンドを使用して組み立てをします。 8 取っ手を取り付け、完成です。 		<p>【工夫した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部品の接合方法に組継ぎを取り入れることにより、のみの使い方や釘を使用せずに接合する方法を学習できるようにしました。 ・ 組継ぎを利用したプランターなどは書籍で紹介されていますが、本教材は一人一つ製作するため、生徒の学習意欲を高めることができ、生物育成の授業を効果的に学習できるようにしました。 ・ 取っ手を付けることにより、持ち運びやすくしました。 ・ 釘を使用していないため、分解が簡単にできます。 	
		<p>【考えられる授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 『材料と加工に関する技術』において、のこぎりやのみなどの使用法、組継ぎを学習し、本教材を製作します。 2 『生物育成に関する技術』において、生物の育成環境などの知識を学習し、管理する技術を学ぶ場面で本教材を使用します。使用例として左図に学校現場でよく見かけるパンジーを育成しているところを紹介します。 			
		<p>【参考文献】</p> <p>平成20年 文部科学省 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編</p>			
<p>組継ぎの写真</p>		<p>使用例</p>			